

# ユナイテッド・マルチ・マネージャー・ファンド 1 (愛称：フルーツ王国)

追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）

## 交付運用報告書

第34期（決算日 2018年3月26日）  
（作成対象期間 2017年9月26日～2018年3月26日）

第34期末（2018年3月26日）	
基準価額	6,448円
純資産総額	674百万円
（2017年9月26日～2018年3月26日）	
騰落率	0.6%
分配金合計	35円

(注1) 以下本書において、基準価額及び分配金は1万口当たりで表記しています。

(注2) 騰落率は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「ユナイテッド・マルチ・マネージャー・ファンド1（愛称：フルーツ王国）」は、このたび、第34期決算を行いました。ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の株式、債券および為替取引等ならびにこれらに関連する派生商品（先物取引およびオプション取引等）に積極的に分散投資を行うことにより、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行いました。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 照会先

ホームページアドレス：<http://www.fivestar-am.co.jp/>

お客様デスク：03-3553-8711

（受付時間：委託会社の営業日の午前9時～午後5時まで）

## ファイブスター投信投資顧問株式会社

東京都中央区入船1-2-9 八丁堀MFビル8階

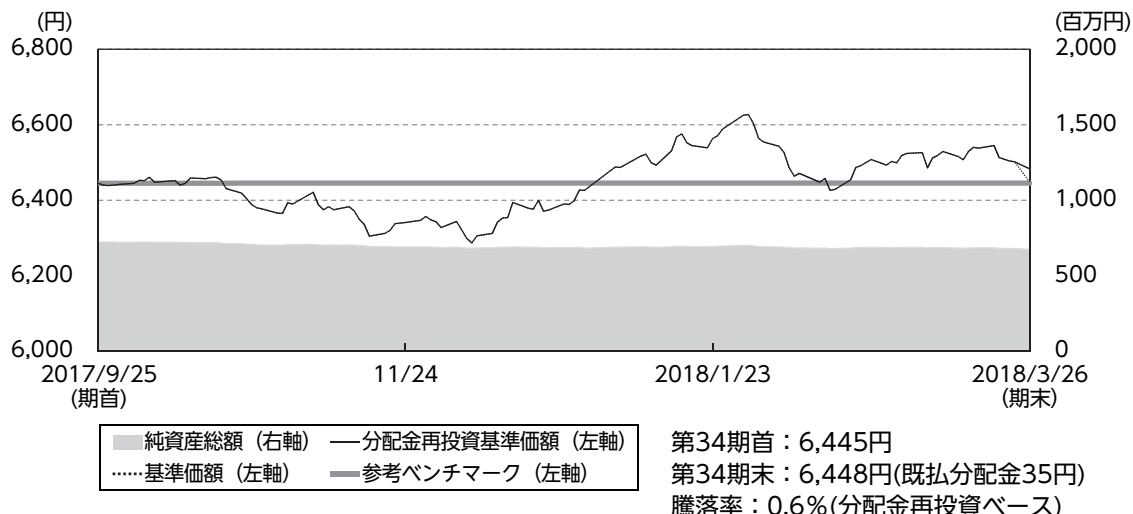
当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供することを定めております。上記PCサイトにアクセスし、「ファンドを検索する」等から、当ファンドのページを表示させることにより、運用報告書（全体版）を閲覧及びダウンロードすることができます。なお、ご請求いただいた場合には交付いたしますので、販売会社までお問い合わせください。

[運用報告書の表記について]

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率および騰落率は小数点第2位または小数点第2位未満を四捨五入しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値と一致しない場合があります。ただし、単位未満の数値について小数表記する場合があります。
- ・－印は組入れまたは売買がないことを示しています。

## ★運用経過

### ☆基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2017年9月25日の値を基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドの参考ベンチマークは、6ヵ月物譲渡性預金利率です。グラフに表示した参考ベンチマークは、2017年9月25日の値が基準価額と同一になるよう再指数化しています。

### ☆基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は上昇しました。

#### (プラス要因)

- ・主に、アルファ戦略(「銘柄選択効果」を主要な収益の源泉とする戦略)で採用している「シングルアルファ・ファンド」がプラスに寄与したこと

#### (マイナス要因)

- ・主に、ベータ戦略(「資産・通貨配分効果」を主要な収益の源泉とする戦略)で採用している「ファイブスター・ETFグローバル・バランス」、アルファ戦略(「銘柄選択効果」を主要な収益の源泉とする戦略)で採用している「スーパーサイクル・シングルアルファ」、がマイナスに影響したこと

# ☆ 1 万口当たりの費用明細

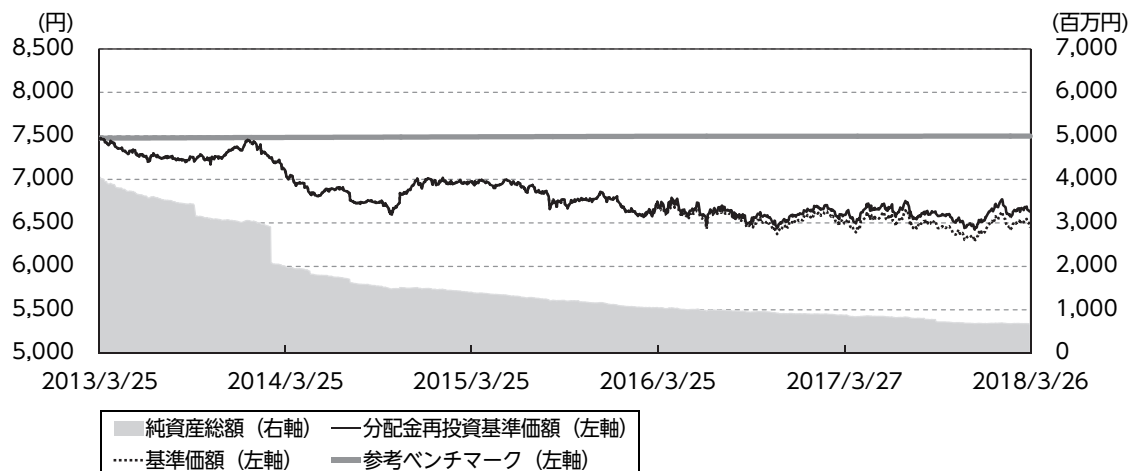
項目	第34期		項目の概要
	(2017年9月26日～2018年3月26日)		
	金額(円)	比率(%)	
(a) 信託報酬	41	0.64	(a) 信託報酬＝〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率 期中の平均基準価額は6,446円です。 信託報酬に係る消費税は当(作成)期末の税率を採用しています。 委託した資金の運用、基準価額の計算、開示資料作成等の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(投信会社)	(14)	(0.22)	(b) 売買委託手数料＝ $\frac{〔期中の売買委託手数料〕}{〔期中の平均受益権口数〕} \times 10,000$ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(販売会社)	(24)	(0.37)	
(受託会社)	( 3)	(0.05)	
(b) 売買委託手数料	－	－	(c) 有価証券取引税＝ $\frac{〔期中の有価証券取引税〕}{〔期中の平均受益権口数〕} \times 10,000$ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(－)	(－)	
(投資証券)	(－)	(－)	
(新株予約権証券)	(－)	(－)	
(先物オプション)	(－)	(－)	
(信用)	(－)	(－)	
(投資信託受益証券)	(－)	(－)	
(c) 有価証券取引税	－	－	(d) その他費用＝ $\frac{〔期中のその他費用〕}{〔期中の平均受益権口数〕} \times 10,000$ 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 印刷費用は、交付目論見書・交付運用報告書等の作成・印刷・送付に係る費用 その他は、計理業務費用、届出書類作成等費用および金銭信託への預入金額に対する手数料
(株式)	(－)	(－)	
(投資証券)	(－)	(－)	
(新株予約権証券)	(－)	(－)	
(先物オプション)	(－)	(－)	
(信用)	(－)	(－)	
(投資信託受益証券)	(－)	(－)	
(d) その他費用	51	0.79	
(保管費用)	(－)	(－)	
(監査費用)	( 5)	(0.08)	
(印刷費用)	(17)	(0.26)	
(その他)	(29)	(0.45)	
合計	92	1.43	

(注1) 期中の費用(消費税にかかるものは消費税を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。また、各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注2) 各比率は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注3) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入ファンドの概要」に表示しております。

## ☆最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金再投資基準価額は、2013年3月25日の値を基準価額に合わせて指数化しています。

(注3) 参考ベンチマークは、6ヵ月物譲渡性預金利率です。グラフに表示した参考ベンチマークは、2013年3月25日の値が基準価額と同一になるよう再指数化しています。

	2013年3月25日 決算日	2014年3月25日 決算日	2015年3月25日 決算日	2016年3月25日 決算日	2017年3月27日 決算日	2018年3月26日 決算日
基準価額 (円)	7,473	7,089	6,975	6,677	6,488	6,448
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	35	70	70
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△5.1	△1.6	△3.8	△1.8	0.5
参考ベンチマーク騰落率 (%)	—	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0
純資産総額 (百万円)	4,058	1,997	1,404	1,046	876	674

(注1) 騰落率は1年前の決算応答日との比較です。

(注2) 参考ベンチマークは、6ヵ月物譲渡性預金利率です。

## ☆投資環境

(期初2017年9月26日～期末2018年3月26日)

### <株式市場>

2008年末に起こった世界的な金融危機で大幅に下落した株式市場は、各国中央銀行の大規模な金融緩和により回復してきました。この流れを受けて上昇してきた米国株式は、2015年後半から2016年にかけて一旦足踏みしましたがそれ以降再び力強い上昇を見せ、2017年は通年でこの上昇が継続しました。その結果、主要米国株式指数は史上最高値を繰り返し更新しました。しかし、2018年2月に入ると好調な米国景気と雇用増加によるインフレ率の上昇懸念とそれに伴う米国長期金利の上昇によって米国株は大幅な下落となり、それ以来変動率の高い相場となりました。米国以外の株式市場も、概ねこの米国株式市場の動きと同様に、2018年2月以降は上昇と下落を繰り返す相場展開でした。

### <債券市場>

米国の連邦準備制度理事会は景気の回復と資産価格の上昇に対応して、2015年末に長期にわたる超低金利政策に別れを告げて、政策金利の引き上げを開始しました。その後の利上げは一年後の2016年末となりましたが、2017年には0.25%ずつ3回の利上げを行いました。更に、2018年3月には再び0.25%の利上げを行っています。それによって、米国の短期金利は上昇傾向が継続しています。また、米国の長期金利も上昇しましたがその上昇が短期金利ほどではないために、イールド・カーブの平坦化（ベアー・フラットニング）が起きています。金利が上昇した結果、米国債券価格は概ね下落しました。日本ではマイナス金利政策の継続と日銀による国債買い入れが継続している結果、金利の上昇は見られません。また、ドイツ国債はヨーロッパ中央銀行が将来的に金融引き締めへ転換する事を見越して若干の金利上昇がみられましたが、それほど顕著なものではありませんでした。新興国債券市場も総じて軟調でした。

### <為替市場>

ドル円相場は、米国の金利上昇によって日米金利差が拡大したことから上昇し、円は一時対ドルで114円を超える円安となりました。2018年に入ると米国長期金利の上昇が加速した事による世界的な株安が起これ、これを嫌気した投資家が安全資産とされる円を買った結果、ドルは一時105円を下回る水準まで下落しました。ドル・ユーロ相場は、ヨーロッパ中央銀行が金融引き締めへ転ずるという観測のもとで下落傾向が続き、一時1ユーロが1.25ドルを上回りました。

## ☆当該投資信託のポートフォリオ

### ○当ファンド

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。当期は指定投資信託証券の見直しを行いました。

見直し日	採用／除外	採用	戦略
2017年10月24日	採用	シングルアルファ・ファンド	アルファ戦略
2017年10月24日	採用	ファイブスター・ETFグローバル・バランス	ベータ戦略
2017年12月25日	除外	スーパーサイクル・シングルアルファ	アルファ戦略
2017年12月25日	除外	ETFグローバル・バランス	ベータ戦略
2018年2月7日	除外	Qbasis All Trends UCITS Fund – Class EI JPY	ベータ戦略

- ・当期の戦略別の投資配分は、期首と比較してベータ戦略の配分を引き下げ、アルファ戦略の配分を引き上げました。
- ・戦略別の当ファンドパフォーマンスへの寄与度を見ると、アルファ戦略はプラス寄与、ベータ戦略はマイナス寄与となり、ファンド全体で見るとプラスのリターン（配当込ベース）となりました。

### ○各指定投資信託証券

※当期末時点で組入れを行っている投資対象ファンドについて、運用経過を記載しています。

#### ●シングルアルファ・ファンド（適格機関投資家私募）

- ・株式への投資を行うと同時に、TOPIX先物を売り建てることにより、市場動向に左右されない安定した中長期的利益の獲得を目指しました。特に中小型株の組入れ銘柄が底堅く推移したことから、2018年以降の株価指数が大幅に下落へ転じるも、ポートフォリオにプラスに寄与しました。

#### ●ファイブスター・ETFグローバル・バランス（適格機関投資家私募）

- ・組入ETFの入替えは行わず、設定・解約時を除いてETFの高位組入れを行い、外貨建資産の一部を対円で為替ヘッジを行いました。為替が期初に比べて米ドル安・円高となったことに加え、米国の利上げ政策などから金利が上昇し米国債が下落、新興国債券やハイ・イールド債券も軟調に推移したことから、それらに連動するETFの基準価額が下落したことがマイナスに寄与しました。

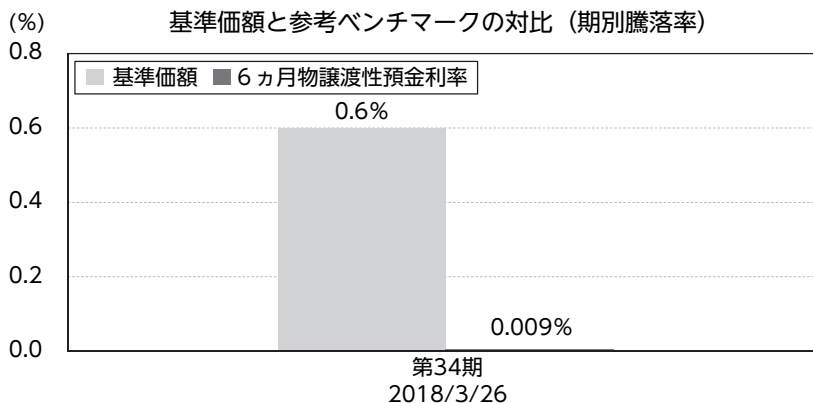
#### ●ユナイテッド日本債券ベビーファンド（適格機関投資家向け）<sup>(注)</sup>

- ・作成期間を通してマザーファンド受益証券を高位に組み入れました。
- ・マザーファンドの債券組入比率は、設定・解約時を除いて高位で推移させました。
- ・マザーファンドでは公社債を中心に、4銘柄前後でポートフォリオを構築しました。

(注) ユナイテッド日本債券マザーファンドを主要投資対象とします。

## ☆当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、絶対リターンを目指して運用を行い、6ヵ月物譲渡性預金利率を参考ベンチマークとしております。



(注) 基準価額の騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

## ☆分配金

分配金額は、経費控除後の利子・配当等収益、基準価額水準等を考慮して以下の通りとさせていただきます。なお、収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

(1万口当たり・税引前)

項目	第34期	
	2017年9月26日~2018年3月26日	
当期分配金 (円)		35
(対基準価額比率) (%)		(0.54)
当期の収益 (円)		35
当期の収益以外 (円)		—
翌期繰越分配対象額 (円)		336

(注1) 「当期の収益」及び「当期の収益以外」は、円未満を切り捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

## ★今後の運用方針

### ○当ファンド

引き続き、投資信託証券への投資を通じて実質的に日本を含む世界各国の株式、債券および為替取引等ならびにこれらに関連する派生商品に積極的に分散投資を行うことにより、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。引き続き、投資対象ファンドのパフォーマンスおよびリスクを注視し、必要に応じて各指定投資信託証券の組入比率を変更すること等によりファンドリターンの改善を目指します。

### ○各指定投資信託証券

#### ●シングルアルファ・ファンド（適格機関投資家私募）

テーマ・アプローチおよびボトムアップ・アプローチをベースとして、企業の成長性、収益性および技術優位性などに着目し、安定的な収益の確保および信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

#### ●ファイブスター・ETFグローバル・バランス（適格機関投資家私募）

主に、世界各国の上場投資信託証券に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

#### ●ユナイテッド日本債券ベビーファンド（適格機関投資家向け）

マザーファンドへの投資を通じて、主に我が国の債券に投資することにより、信託財産の長期成長を目指します。



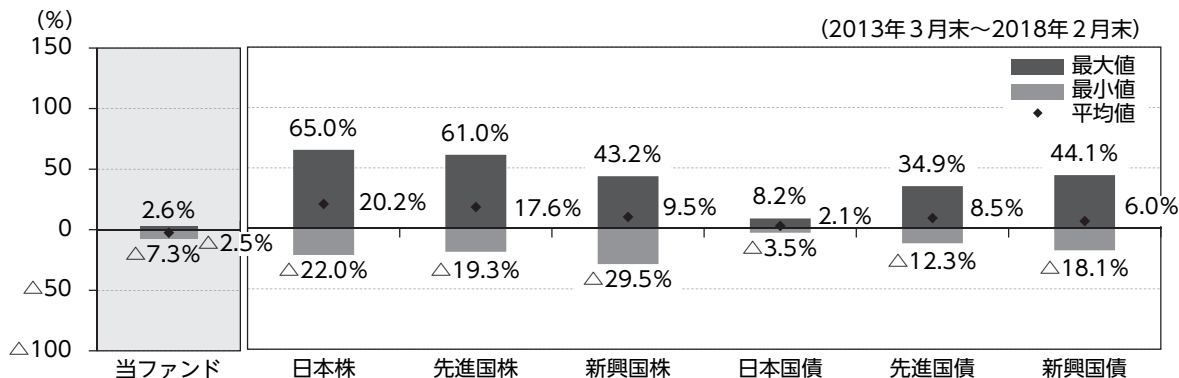
## ★お知らせ

ユニテッド・マルチ・マネージャー・ファンド1の委託会社が平成30年1月22日付けで日本アジア・アセット・マネジメント株式会社からファイブスター投信投資顧問株式会社に変更となっております。これに伴い平成30年1月22日に約款変更を行っております。

## ★当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	2001年3月12日から無期限	
運用方針	6ヵ月物譲渡性預金利率を参考ベンチマークとし、投資信託証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界各国の株式、債券および為替取引等ならびにこれらに関連する派生商品（先物取引およびオプション取引等）に積極的に分散投資を行うことにより、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。	
主要投資対象	下記の投資信託証券を投資対象とします。（第34期決算時）	
	シングルアルファ・ファンド（適格機関投資家私募）	ファイブスター投信投資顧問株式会社が運用する追加型証券投資信託
	ファイブスター・ETFグローバル・バランス（適格機関投資家私募）	
	ユニテッド日本債券ベビーファンド（適格機関投資家向け）	日本アジア・アセット・マネジメント株式会社が運用する追加型証券投資信託
組入投資信託証券の運用方法	シングルアルファ・ファンド（適格機関投資家私募）	・主として、わが国の金融商品取引所上場株式への投資と、株価指数先物取引を活用した運用を行います。
	ファイブスター・ETFグローバル・バランス（適格機関投資家私募）	・主として、世界各国の上場投資信託証券に投資します。
	ユニテッド日本債券ベビーファンド（適格機関投資家向け）	・ユニテッド日本債券マザーファンドを通じて、実質的にわが国の公社債に投資を行います。 ・マザーファンドはNOMURA－BPI総合指数を上回る運用成果を目指します。
分配方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年3月および9月の各25日（休業日の場合は翌営業日）の決算時に分配を行います。</li> <li>・分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）の全額とします。</li> <li>・分配金額は、委託者が基準価額水準・市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配を行わないこともあります。</li> <li>・収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については特に制限を設けず、運用の基本方針に基づき運用を行います。</li> </ul>	

## ★代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注1) 当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについては、2013年3月～2018年2月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値、最大値、最小値を表示したものであり、決算日に対応した数値とは異なります。

(注2) 当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されておりますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

(注3) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注4) 各資産クラスの指数

### 日本株：TOPIX（配当込み）

TOPIXとは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値及びそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。東京証券取引所はTOPIXの算出もしくは公表方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

### 先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### 新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### 日本国債：NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債とは、野村證券株式会社が発表している我が国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、国債のほか、地方債、政府保証債、金融債、事業債および円建外債等で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI国債は野村證券株式会社の知的財産であり、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任ありません。

### 先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合投資収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、商標権、その他知的財産権はすべてFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### 新興国債：FTSE新興国市場国債インデックス（円ベース）

FTSE新興国市場国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、主要新興国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、商標権、その他知的財産権はすべてFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

※ 先進国株ならびに新興国株については米ドルベースのため、Bloomberg L.P.（ブルームバーグ・エル・ピー）が提供する円換算の指数を表示しております。

## ★当該投資信託のデータ

### ☆当該投資信託の組入資産の内容

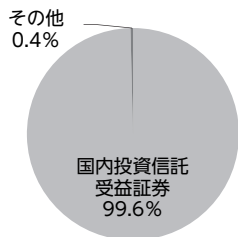
#### ○組入ファンド

ファンド名	当期末
	2018年3月26日
シングルアルファ・ファンド（適格機関投資家私募）	59.6%
ファイブスター・ETFグローバル・バランス（適格機関投資家私募）	38.9%
ユナイテッド日本債券ベビーファンド（適格機関投資家向け）	1.2%
その他	0.4%
組入銘柄数	3ファンド

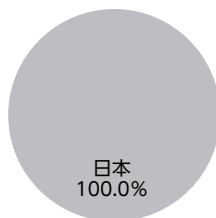
（注1）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

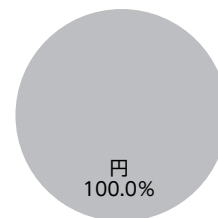
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



（注1）資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合、国別配分の比率は組入証券評価額に対する評価額の割合です。

（注2）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

（注3）組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

### ☆純資産等

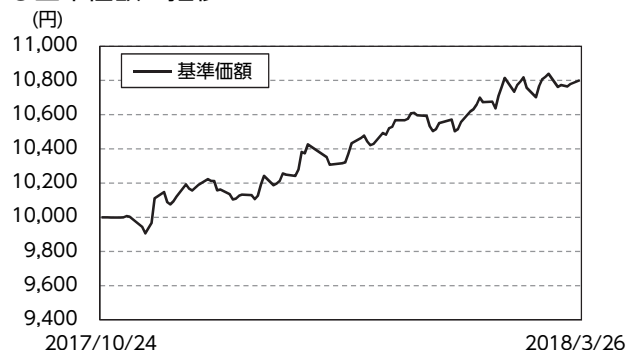
項目	当期末
	2018年3月26日
純資産総額	674,501,825円
受益権総口数	1,045,994,433口
1万円当たり基準価額	6,448円

（注）当期間中における追加設定元本額は17,934,609円、同解約元本額は92,022,240円です。

## ☆組入ファンドの概要

シングルアルファ・ファンド（適格機関投資家私募）（2017年10月24日～2018年3月26日）

### ○基準価額の推移



### ○1万口当たりの費用明細

(2017年10月24日～2018年3月26日)

項目	当期	
	金額	
信託報酬 (投資信託会社)	28円	(26)
(販売会社)	(0)	(0)
(受託会社)	(2)	(2)
売買委託手数料 (株式会社)	54	(47)
(投資証券)	(0)	(0)
(先物オプション)	(7)	(7)
その他費用 (その他)	1	(1)
合計	83	

期中の平均基準価額は、10,380円です。

(注) 項目等詳細につきましては運用報告書(全体版)に記載しております。

### ○組入上位10銘柄

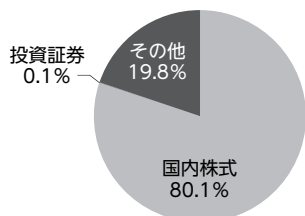
順位	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	東芝	電気機器	日本円	日本	1.4%
2	ジンズ	小売	日本円	日本	1.1%
3	エル・ティール・エス	サービス	日本円	日本	1.1%
4	セレス	情報通信	日本円	日本	1.0%
5	ライドオンエクスプレスホールディングス	サービス	日本円	日本	1.0%
6	テックポイント・インク JDR	電気機器	日本円	日本	1.0%
7	島津製作所	精密機器	日本円	日本	1.0%
8	関電工	建設	日本円	日本	0.9%
9	FRONTEO	サービス	日本円	日本	0.9%
10	エムスリー	サービス	日本円	日本	0.9%
組入銘柄数			175銘柄		

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

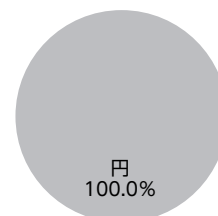
### ○資産別配分



### ○国別配分



### ○通貨別配分

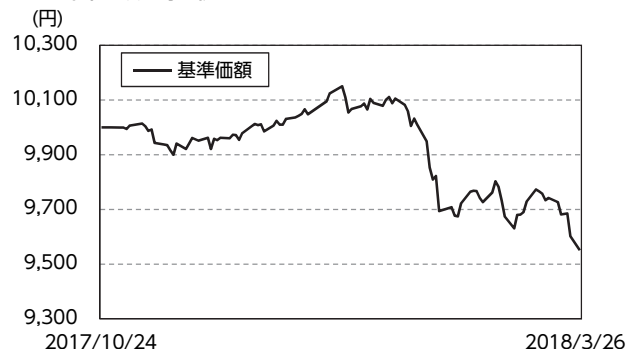


(注1) 上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2018年3月26日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合、国別配分の比率はポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

# ファイブスター・ETFグローバル・バランス（適格機関投資家私募）（2017年10月24日～2018年3月26日）

## ○基準価額の推移



## ○1万口当たりの費用明細

（2017年10月24日～2018年3月26日）

項目	当期金額
信託報酬 （投資信託会社） （販売会社） （受託会社）	16円 (12) (0) (4)
売買委託手数料 （投資信託受益証券）	8 (8)
その他の費用 （保管費用） （その他）	1 (1) (0)
合計	25

期中の平均基準価額は、9,958円です。

（注）項目等詳細につきましては運用報告書（全体版）に記載しております。

## ○組入上位10銘柄

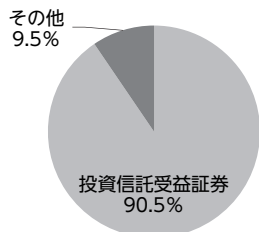
順位	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
1	ISHARES CORE U.S. AGGREGATE BOND ETF	投資信託受益証券	米ドル	米国	31.3%
2	ISHARES MSCI WORLD UCITS ETF USD (Dist)	投資信託受益証券	米ドル	アイルランド	21.0%
3	ISHARES JP MORGAN USD EMERGING MARKETS BOND ETF	投資信託受益証券	米ドル	米国	15.6%
4	ISHARES IBOXX USD HIGH YIELD CORPORATE BOND ETF	投資信託受益証券	米ドル	米国	15.4%
5	ISHARES MSCI EMERGING MARKETS ETF	投資信託受益証券	米ドル	米国	7.2%
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			5銘柄		

（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

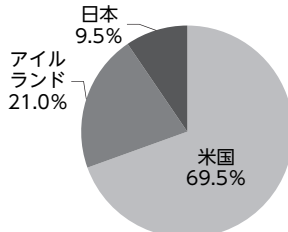
（注2）組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

（注3）国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

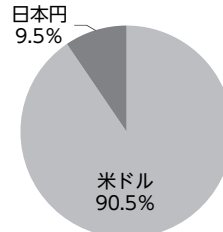
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



（注1）上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2018年3月26日現在のものです。

（注2）資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合、国別配分の比率はポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

# ユナイテッド日本債券ベビーファンド (適格機関投資家向け) (2017年3月28日～2018年3月26日)

## ○基準価額の推移



## ○1万口当たりの費用明細

(2017年3月28日～2018年3月26日)

項目	当期
	金額
信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	24円 (12) (2) (9)
その他の費用 (保管費用) (監査費用) (印刷費用) (その他)	379 (ー) (29) (15) (336)
合計	403
期中の平均基準価額は、10,944円です。	

(注) 項目等詳細につきましては運用報告書 (全体版) に記載しております。

## ○組入上位10銘柄

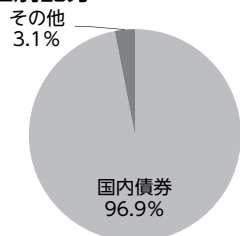
順位	銘柄名	業種/種別等	通貨	国 (地域)	比率
1	第293回利付国債(10年)	国債証券	日本円	日本	6.2%
2	第319回利付国債(10年)	国債証券	日本円	日本	32.1%
3	第87回利付国債(20年)	国債証券	日本円	日本	36.3%
4	第145回利付国債(20年)	国債証券	日本円	日本	22.4%
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			4銘柄		

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

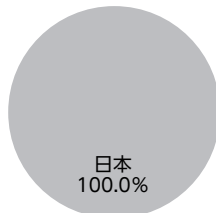
(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載されています。

(注3) 国 (地域) につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

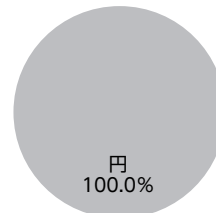
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注1) 上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、「ユナイテッド日本債券マザーファンド」の決算日 (2018年3月26日) 現在のものです。当該ファンドが投資対象とするマザーファンドの内容を記載しています。(比率は純資産総額に対する評価額の割合)

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合、国別配分の比率はポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。